

ナシ黒星病の発病果が多い状況が続いています！

発病した果実及び葉の除去を徹底し、二次伝染を防ぎましょう

[現在の状況]

- ① 6月下旬現在、果実における発病率は平年より高く（本年値 0.8%，平年値 0.3%）、発生地点率は平年よりやや高い（本年値 53%，平年値 38%）（表、図）。
- ② 6月下旬現在、葉における発病率（本年値 0.7%，平年値 1.0%）、発生地点率（本年値 63%，平年値 63%）はともに平年並である。
- ③ 7月6日現在、水戸市のアメダスデータによると、7月1～6日の降水量は平年よりやや多い（過去11年中2位）。また、気象予報によると、向こう1週間（7月7～13日）は梅雨前線や湿った気流の影響で曇りや雨の予報であり、発生を助長する条件である。

表 6月下旬におけるナシ黒星病発病果率及び発生地点率

地域(地点数)	発病果率(%)			発生地点率(%)		
	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾	本年	平年	順位
全県(19)	0.8	0.3	1位	53	38	4位
県北(1)	0	0.4	9-11位	0	70	9-11位
県央(2)	2.2	0.2	1位	50	20	1-5位
県南(6)	0.8	0.3	1-2位	100	43	1-2位
県西(10)	0.7	0.2	1位	30	32	5-6位

1) 平成 17～26 年までの 10 年間の平均値を示す。

2) 本年を含む過去 11 年間における順位を示す。

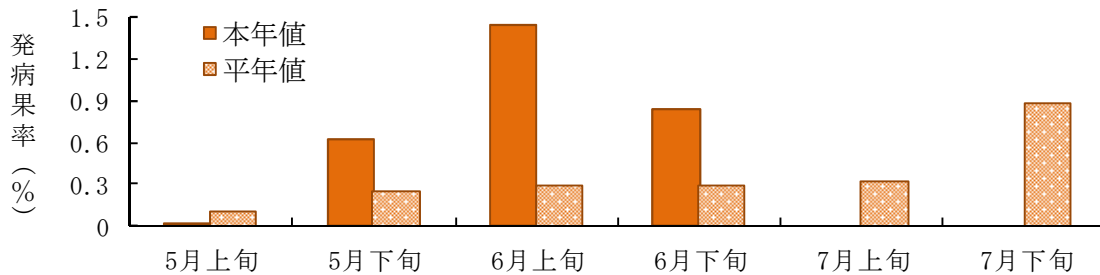


図 防除所調査 19 地点におけるナシ黒星病発病果率の推移

[防除対策]

- ① 発病した果実及び葉は第二次伝染源となるため、見つけ次第除去して土中深く埋める等、適切に処分する。
- ② 薬剤散布は、発病部位を除去した後に行うと防除効果が高い。
- ③ 平成 27 年版赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例に準じ、散布間隔が 10 日以上空かないように防除を実施する。連続した雨が続く場合は、散布間隔を詰めてフルーツセイバー等の薬剤を収穫前日数に注意し、追加散布する。
- ④ 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。